

授業科目名	演劇教育論	担当教員	平田 知之 石井 路子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第3クォーター		
講義内容	演劇を活用した教育を支える理論と実践について、最新の動向を実践的に学ぶとともに、文献を活用して、通時的、共時的な理解を深め、エビデンスに基づいたワークショップの企画提案する力を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇を活用した教育が、どのような理論の積み重ねの上に成り立っているのかを通時的に理解する。 ・演劇を活用した教育の意義を、エビデンスをもとに説明できるようになる。 ・理論に支えられた、演劇を活用した教育の企画を、現場に合わせて提案できるようになる。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション (石井、平田) 第2回 米国の演劇教育とシアターゲームの思想(平田) 第3回 演劇的手法の日本における展開 ～英国のドラマ教育を源流として(平田) 第4回 被抑圧者の演劇とフォーラムシアター (平田) 第5回 大正新教育運動と学校劇 (平田) 第6回 戦後の学校演劇 ～学芸会、部活動、総合的学習 (平田) 第7回 演劇教育の系統的カリキュラム (1) (石井) 第8回 演劇教育の系統的カリキュラム (2) (石井) 第9回 学校現場と演劇 (1) 他者を想像できる身体作りのために (石井) 第10回 学校現場と演劇 (2) 自分と向き合うために (石井) 第11回 学校現場と演劇 (3) 他者と協働するために (石井) 第12回 まとめと振り返り (石井、平田)		
事前・事後学習	事前 予め指定する資料に目を通しておく 事後 各自の文献リストを毎回アップデートしてレポートする		
テキスト	各回の授業において資料を配付する		
参考文献	『ドラマ教育入門』(小林由利子他、2010) 『即興術』(スポーリン著 大野あきひこ訳, 2005) 『教育方法としてのドラマ』(J. ニーランズ・渡部淳, 2009) 『なってみる学び: 演劇的手法で変わる授業と学校』(渡辺貴裕・藤原由香里 2020) 『ビデオによるリフレクション入門』(佐伯胖・刑部郁子・苺宿俊文, 2018)		
成績評価の基準	平常点 (ディスカッションや協同作業への参加) 60% レポート 40%		
履修上の注意 履修要件			

実践的教育	該当しない。
備考欄	理論科目「演劇教育入門」や実践科目「演劇ワークショップ実習D」と合わせて理論と実践の往還を図っているので、履修計画の参考にしてほしい